

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990700088	
法人名	社会福祉法人百葉の会	
事業所名	グループホーム百葉南部の郷	
所在地	山梨県南巨摩郡南部町南部8058-1	
自己評価作成日	令和2年12月24日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和3年3月9日(火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナウイルス感染症対策の為、外出する機会が減ってしまったが、ブログや広報誌を通して、お客様の状況を家族や地域に発信している。 ・今年度はリモートでの研修を行い、コロナ禍の中でも新人職員は研修を受けることができています。 ・毎月1回誕生日会を行い、入居されているお客様と職員でお祝いをしている。その日はちらし寿司やお赤飯などお客様が好きなメニューを提供している。 ・毎年顧客満足度アンケートを実施し、お客様、またそのご家族様から意見をいただく機会を設けている。その意見を職員間で周知し、回答し、玄関に貼りだし、外部に発信している。 ・今年度はコロナウイルス感染症対策の徹底的に行った。感染症に対しての職員の意識統一と意識の向上が図れた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は県の南部、富士川沿い南部町の旧市街地に隣接した場所にある。同じ法人のデイサービスセンターと併設した鉄骨2階建ての1、2階の2ユニットになっている。デイサービス利用者と合同でイベントを行ったり、地域のボランティアが定期的に訪問する等地域住民との交流の場となっている。ユニット毎に職員を分けることなくケアし、利用者の状況を共有し支援している。今年度はコロナ禍により、外出や面会、運営推進会議開催等の活動が困難になったが、ブログや広報誌をとおして事業所や利用者の様子を発信している。また、利用者の感染予防を徹底し、職員研修をリモートで行う等感染症対策に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように(コロナ禍以前) 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉 南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人事業計画から施設目標、部署目標を策定し、部署会議内にて管理者と職員は目標進捗状況を確認し、実践に繋げている。	同左	法人の理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を礎とし、今年度は「1、自分の住んでいる地域で楽しく働くために2、ここでいいではなくここがよい施設になるために3、この地域の中心に南部の郷がある」を事業所目標として、毎月のサービス担当者会議で振り返りを行い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナウィルス感染症防止の為、ボランティアの来所と外出事は中止となった。その為、地域との交流を図ることができなかったが、ブログや広報誌を通して、外部に発信した。	同左	地域のボランティアサークルが踊りや太鼓を披露し、地域の祭りや事業所行事での交流も活発に行われ積極的に地域との関係を築いていたが、現在はコロナ禍の為、ボランティア受入れや行事が中止になっている。事業所と地域とのつながりを継続する為に、ブログや広報誌を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設間の研修を行い、研修内容をブログや広報誌に掲載し、外部に発信している。	同左		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウィルス感染症対策の為、運営推進会議は開催することができませんでした。	同左	2か月に1回会議を開催し、事業所の報告や参加者との意見交換を実施していたが、今年度はコロナ禍の為に開催していない。行政担当者には必要に応じて事業所の状況を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が地域の包括支援センター運営協議会等に参加し、情報共有を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	同左	毎月、地域包括支援センターの運営協議会に法人代表者が出席し他の事業所と情報交換したり、町の介護計画推進について協議している。また、事業所の広報誌や運営状況を報告し、情報を共有しながら連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の勉強会を実施。基本指針をもとに身体拘束をしないケアの実践をしている。	同左	身体拘束に関する基本指針をもとに年2回職員研修を実施している。全職員が出席できるようにし、参加出来ない場合は書面で伝えている。日常のケアではスピーチロックや行動制限に配慮し、日中は玄関を開錠する等利用者本位に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の勉強会を実施。委員会を中心に会議内で進捗確認と注意喚起を行っている。	同左		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じ、制度等を理解し情報共有をすることにより個々の知識の向上に努めている。	同左		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法改正があった際には説明会を開催しお伝えしている。契約時には重要事項説明書やリスク説明を十分に行い同意を得ている。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉 南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年顧客満足度アンケートを実施。ご本人様ならびにご家族様の意見をいただき、その対応策を管理者と職員は話し合っている。回答を玄関に掲示し、外部者へ表している。	同左	毎年、顧客満足度アンケートを実施し利用者や家族の意見を把握している。事業所の環境改善について要望があり、花を飾ったり居室の壁を整備して対応した。出された意見に対する回答は玄関に掲示している。面会や行事で家族が来訪する際には職員と気軽に話せる雰囲気や環境づくりに配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議内で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。又、半期に1回個人面談を行い、その中で職員の意見を集約し、その後の運営に反映している。	同左	半期に1回個人面談を行い、職務や運営に関する職員一人ひとりの意見を聴く機会を設けている。また、各種会議でも職員の提案や意見を聴き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に1回個人面談を実施。その中で職場環境・条件の整備を行っている。適正な職員配置の為、採用活動を行ったり、休憩時間の見直しを行い、職員が働きやすい職場環境作りをしている。	同左		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は法人内の研修に参加している。また、新人達成度チェック表を運用し、新人職員の力量把握に努めている。	同左		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、コロナウイルス感染症対策の為、リモートでの法人間研修を実施。その中で同業者と交流する機会を作り、研修を通してサービスの質の向上を目指している。	同左		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員はお客様の生活歴やバックグラウンドを調査し、日常の会話の中に活かしている。その中で、お客様が不安に思っていることなどを聞き出すように努めている。	同左		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談やアセスメントにてご家族等との関係性作りに努めている。	同左		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談後、お客様に本当に必要な支援とは何かを見極め、必要に応じて他のサービスを含め助言している。	同左		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はお客様の座席の配置や話の話題に配慮することで、お客様同士の関係性の構築に努めている。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉 南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の状況に変化が見られた場合、施設だけで解決するのではなく、ご家族様に協力を要請しながら、一緒に解決する関係性を構築している。	同左		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナウィルス感染症対策の為、地域行事等には参加できなかったが、お客様の状況を広報誌やブログで更新することで外部に発信している。	同左	町主催の文化祭や福祉祭り、法人の納涼祭等で地域住民や家族と交流し、地域の一員として参加し利用者の楽しみとなっている。今年度はコロナ禍によりイベントや行事が中止又は縮小され、地域との交流が困難でありブログや広報誌により事業所の様子を発信している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の会話や関係性が円満になるよう職員は状況に応じて会話に加わり支援をしている。	同左		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お客様の退去後も相談に乗れる支援体制をとっている。	同左		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議内で実施。また、お客様との会話の中から嗜好調査をし、行事で提供している。	同左	職員は、日頃の関わりから利用者の意向を把握し、サービス担当者会議で協議し、支援に繋げている。また、食事や生活全般について利用者の嗜好調査を実施し、行事や日常生活に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回相談の際、ご本人様やご家族様から聴取している。また、入居後、お客様との会話の中から経過等の把握に努めている。	同左		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は会議内での情報共有を行ったり、申し送りやケア記録を使った情報共有をリアルタイムで行っている。	同左		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を実施し、その中でお客様の状況を協議し、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。	同左	入居時は本人、家族、ケアマネージャー等関係者から生活に関わる希望や意向を聴き取りそれらを反映した介護計画を作成する。3か月毎にモニタリングするがサービス担当者会議で協議し、必要があれば修正している。変更がある時は本人や家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や申し送りノートでお客様の状況や気付きを情報共有し、その情報をもとに計画作成担当者は介護計画書を作成している。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉 南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス担当者会議や会話の中からニーズを把握し、ご本人様やご家族様の状況にあったサービスを提供している。	同左		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	代表者が地域の包括支援センター運営協議会等に参加し、情報共有を行い、協力関係を築けるように取り組んでいる。また、地域のケア勉強会に参加し、お客様がその地域で楽しく過ごせるよう、情報共有を行っている。	同左		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はお客様とご家族様のご希望を尊重し、意思決定を行っている。職員はお客様の状況を常に主治医に報告し、情報共有を行っている。	同左	利用者は以前からのかかりつけ医を主治医として訪問診療を受けている。専門医を受診する際は家族の協力を得ているが、出来ない場合は職員が対応している。ナースステーションの訪問看護と連携し、夜間や緊急時の対応をしている。医師との連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はお客様の日々の状況や気付きを訪問看護師や併設のデイサービスの看護師と情報共有を行っている。	同左		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	計画作成担当者が主になり、病院相談窓口や担当看護師と密に連携し、関係性作りを努めている。	同左		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お客様の重度化やターミナルへの対応に伴い、ご家族様や主治医、訪問看護師、職員を交えてサービス担当者会議を開催し、その方向性を明確にしている。	同左	入居時に重度化や終末期についての指針を説明している。本人の状況が変化した場合や対応が必要になった時は医師の判断により、家族、主治医、訪問看護師、管理者、職員等で本人の状況や家族の意向を大切にしながら方向性を協議している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	お客様の急変や事故発生時は法人の統一マニュアルに沿って対応している。応急手当や初期対応の訓練は行っていない。	同左		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は年間2回の防災訓練を実施している。また、訓練の際は消防署の協力を得ながら行うことで、地域との協力体制を築いている。	同左	年2回消防署の協力を得ながら防災訓練を実施している。訓練後は職員アンケートを取り次に繋げている。地元の消防団に職員が加入しているので、災害時の協力体制が取れている。災害時の発電機や備蓄もあり、福祉避難所として地域との連携も取れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常にお客様の側の立場に立ち、お客様一人一人の人格を尊重し、声掛けや対応を行っている。	同左	利用者は自分の家族と同じという意識を常に持ちながら寄り添い、一人ひとりを尊重したケアについてサービス担当者会議で共有し、実践に繋げている。個人ファイルや申し込み書等は外部の目にふれないように管理している。ブログや広報誌の写真等の扱いは本人や家族の承諾を得ている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉 南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はお客様となじみの関係を構築することで、お客様が自己決定ができる環境を作り上げている。	同左		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の希望に対応し、その人にあったペースで過ごしていただいている。	同左		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中の服装は、お客様が自由に選定し、職員はお客様のその人らしい身だしなみを尊重している。	同左		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様のレベル低下に伴い、食事の準備や片付けが困難になってきているが、食事もお客様の楽しみになるように嗜好調査を行い、行事に提供している。	同左	業者による献立や食材購入が主になっているが、季節行事、イベント、誕生日等はメニューを変更したり、手作りすることもある。また、嗜好調査を行い利用者の希望を反映した食事としている。外出の制限がある為外食は困難だが事業所内で食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録に食事量や水分量を記載し、把握している。その状況に応じて、お客様に声掛けを行っている。	同左		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。	同左		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア記録に排泄のタイミングを記載し、それを把握することで、お客様の習慣にあった排泄を行うことができる。	同左	それぞれに紙オムツ、リハビリパンツ、布パンツを使用しているが、ケア記録により一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレに誘導している。各居室にトイレがあり、フロアにも車椅子対応の広いトイレがあるので、利用者は落ち着いて使用できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員はお客様の排泄状況を把握することで、お客様一人一人にあった飲食物の提供や運動への働きかけを行っている。	同左		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様一人一人に声掛けを行い、希望に沿って入浴をしていただいております。	同左	毎日、概ね午前10時から午後4時の間に入浴できる。入浴回数は決めていないので自由に入浴できる。シャンプー等の入浴用品は共用しているが、希望があれば好みの物を用意している。入浴を拒否する場合はタイミングを見て声かけしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉 南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調をみて必要に応じ声掛けをしているが、基本はご本人のリズムにて休息をして頂いている。	同左		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、薬情書を職員間で情報共通し、間違いのない服薬支援をしている。	同左		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中、塗り絵や創作活動、編み物などお客様らしい思いに趣味活動ができるように職員は支援している。また、天気の良い日は外を散歩するなど、刺激のある日常を過ごしている。	同左		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナウィルス感染症対策の為、外出は控えているが、近くの畑や散歩に行き対応している。	同左	これまでは家族や職員と外出することが多かったが、現在はコロナ禍による外出自粛で機会が少ない状況である。近所の散歩や畑の管理に出たり、小グループでドライブして景色を見たり、花見をして気分転換している。	
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル回避の為、預り金は廃止している。金銭については立替金にて処理をしている。	同左		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望する場合やご家族様からの電話があった場合、職員はその支援をしている。年賀状や手紙は職員が読み聞かせることで、支援をしている。	同左		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の創作物を飾ることで、季節を感じていただいているほか、共用の空間に刺激がないように配慮することで、お客様に居心地よく過ごしていただいています。	同左	各ユニットは同じ作りになっている。ワンフロアで中央に対面式キッチンがあり、調理の様子がわかり、家庭的な雰囲気がある。小上がりは畳になっていてテレビが置かれ、利用者がくつろげるスペースになっている。壁には利用者の作品や行事の写真が飾られ、フロアの飾りは季節を感じられるように工夫し、清潔な環境づくりを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様の状況や希望により居室と共用の空間を使い分け、職員はお客様が思い思いの時間を過ごせるように声掛け支援を行っている。	同左		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたものをお持ち込みいただき、なじみの物に囲まれた空間で過ごしていただくよう配慮している。	同左	居室は全室フローリングでペット、トイレ、洗面台、カーテン、エアコン、クローゼットが備えてある。チェストや写真、仏壇等の馴染みの品を持ち込み、利用者が安心して、居心地よく過ごせるようにしている。家族の来所が困難なため職員が利用者と共に居室の整理や衣類管理等を行いケアしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はお客様の身体状況に合わせて、導線を確保し、職員は常に安全に配慮している。	同左		